

## 新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について（報告）

本市教育委員会は、令和5年度入学者選抜（令和4年度に実施）から、広島県、呉市、尾道市、福山市と同一の新しい入学者選抜制度を導入した。

この度、新しい入学者選抜制度の実施を受けて中学校長、高等学校長及び高等学校第1学年生徒等に対して意見聴取を行い、成果と課題を整理した。この成果と課題を踏まえ、引き続きよりよい公立高等学校入学者選抜の実施に努める。

### 1 意見聴取の概要

令和5年3月に広島市立中学校長及び広島市立高等学校長を対象とした意見聴取を行った。また、令和5年4～6月にかけて、広島県、広島市、呉市、尾道市、福山市教育委員会が連携し、全公立高等学校長、全公立中学校長、全市町教育委員会及び公立高等学校第1学年生徒を対象とした意見聴取を行った。

#### <意見聴取した項目>

##### 【新しい入学者選抜制度のポイント】

- (1) 主体的な志望校選択の実現
  - ・各高等学校の学科・コースの特色に応じて、「特色枠による選抜」を実施  
「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を各高等学校が設定可能
  - ・傾斜配点、活用教科の設定、学校独自検査を各高等学校が実施可能
  - ・一般枠による選抜の配点の比重は「一般学力検査：調査書：自己表現＝6：2：2」
  - ・教育目標や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを全校が公表
- (2) 調査書の簡素化
  - ・調査書に記載する内容は「学習の記録（評定）」のみに変更  
欠席日数、教員の所見欄（特別活動の記録、スポーツ・文化・ボランティア活動の記録等）などは削除
  - ・学習の記録（評定）の学年間の比重は「第1学年：第2学年：第3学年＝1：1：3」
- (3) 入学者選抜に係る期間の短縮
  - ・選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、「一次選抜」として実施
  - ・一次選抜を2月下旬に実施
- (4) 受検者全員に「自己表現」を実施
  - ・受検者全員に自分自身のことを表現する「自己表現」を実施

### 2 成果と課題について

#### (1) 主体的な志望校選択の実現について

##### <成果>

- ・各高等学校が学科・コースの特色に応じて実施する「特色枠による選抜」の実施、教育目標や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートの公表等により、中学生の一層の主体的な学校選択の実現の一助とすることができた。
- ・各高等学校においては、教育目標、育てたい生徒像及び入学者受入方針の策定に当たり、校内及び学校運営協議会等の場において協議するなど、自校の特色を再認識するとともに、

社会に開かれた教育課程を実現する一助となった。

<課題>

- ・ 「一般枠による選抜」と「特色枠による選抜」の違いや配点の比重について分かりにくいとする意見等もあることから、引き続き丁寧に周知していく必要がある。

【主な意見】

- 特色枠による選抜によって教育目標に合った生徒を受入れることができた。(高等学校)
- 特色枠による選抜で、傾斜配点の設定をするなど、各高等学校の特色や目指すべき方向性が表れていて、生徒が主体的に志望校を選択し、決定する上で参考になった。(中学校、市町教育委員会)
- 一般枠と特色枠の違いや比重について分かりにくい。(中学校)

(2) 調査書の簡素化について

<成果>

- ・ 調査書について、記載する内容は学習の記録(評定)のみとし、欠席日数の記載や教員の所見欄を削除するなど簡素化を行ったことにより、これまでの選抜(I)等で、入学者選抜の判断への影響が不透明であるとの指摘もあった調査書の取扱いについて、透明性・客観性を高めることができた。
- ・ 学習の記録(評定)について、第3学年を3倍とする重み付けを行ったことにより、高等学校入学段階における到達度を、より適切に評価することができた。
- ・ 中学校の途中まで成績が不振であった生徒や、様々な理由により欠席日数が多かった生徒にとっては、こうした取扱いの改善により、学習等に対する意欲や成果を適切に評価することで、進路実現を支援する一助となった。
- ・ 調査書の作成に係る中学校の教員の負担軽減により、教員が生徒に向き合う時間の確保につなげることができた。

<課題>

- ・ 学習の記録(評定)の学年間の重み付けについての意見や、高等学校入学に当たって速やかに中高連携を行うための工夫が必要である旨の意見等もあることから、引き続き、趣旨の周知や工夫・改善をしていく必要がある。

【主な意見】

- 合格者の決定に必要な情報を精選したことになり、公平・公正な評価の一部になったと思う。(高等学校)
- 中学校3か年の欠席日数が記述されない調査書は、欠席日数が入試に無関係であるという大きなメッセージとして届いたと考える。(調査書に欠席日数を書かないことを理由に、公立を受検した生徒もいた。)(高等学校、中学校、市町教育委員会)
- 調査書の作成に係る教員の負担軽減により、進路指導や授業時間の確保ができた。(中学校)
- これまで調査書に書かれる内容を意識するあまり、評価を高めるためボランティア活動や望ましい行動をする生徒が一部存在したが、評価のためではなく、本質的に大切なことに力を入れやすくなったと考えられる。(市町教育委員会)
- 調査書の学年ごとの比重が1:1:3であることは、第1学年・第2学年でコツコツ頑張ってきた生徒に対する評価が十分になされているとは思えない。(中学校)

(3) 入学者選抜に係る期間の短縮について

<成果>

- ・ 2月上旬に実施していた選抜(I)を廃止し、3月上旬に実施していた選抜(II)と統合し、一次選抜として実施することで、入学者選抜に係る期間を短縮し、各中学校・高等学

校において、授業や学校行事の時間を増やすなど、教育活動の充実につなげることができた。

<課題>

- ・ 一次選抜の日程（実施時期）については、公立・私立高等学校全体の入学者選抜の日程を踏まえて、中学校、高等学校など様々な立場の意見があることから、引き続き、慎重に検討する必要がある。
- ・ 一次選抜の第1日の時程については、5教科の一般学力検査に加えて自己表現カードの記入（30分）を実施しているため長時間の時程になり、受検者及び入学者選抜を実施する高等学校に負担となっている旨の意見等があることから、改善をしていく必要がある。

【主な意見】

- 選抜（I）がなくなったことにより、進路指導における1月末までの日程について忙しさが軽減された。（中学校、市町教育委員会）
- 選抜（I）を実施していた2月上旬に、学習成果発表会等の学校行事を開催することができ、生徒はより充実した学校生活を送ることができたと思う。（高等学校）
- 公立と私立の入試日程が離れすぎている。できる限り近づけた日程を検討してほしい。（高等学校、中学校）
- 選抜の実施や事後処理と同じ期間に、卒業式や学年末考査などの学校行事が重複し、日程確保に苦慮したので、2月中旬の実施が望ましい。できれば2月上旬がよい。（高等学校）
- これまでの選抜の日程から1週間早まった（2月下旬になった）ことに合わせて、卒業式が早まったり、選抜が1日増えたりしたことで、授業時間（3年間のまとめの時間を含む）の確保が困難となった。（中学校、市町教育委員会）
- 私学の入試日程の繰下げを依頼してほしい。（中学校）
- 一次選抜の第1日の時程は、学校にも受検生にも負担。（高等学校、中学校、市町教育委員会）

(4) 受検者全員に「自己表現」を実施

<成果>

- ・ 全ての中学校・高等学校において、自己表現に対する理解や、自己開示ができる安全で安心な環境づくりが大きく進んだこと、また、こうした環境の中で、子供たち自身に「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が身に付いてきた。
- ・ 入学者選抜における自己表現の評価に当たっては、各高等学校で複数の検査場で、複数の検査官が評価を行うため、公平・公正な評価ができるよう複数回の研修を実施し、高等学校の教職員の理解の徹底を図ってきた。その結果、評価の難しさを感じる声はあるものの、適正な評価がなされた。今後も引き続き、研修のより一層の充実により理解の徹底に努めていく。

<課題>

- ・ 自己表現の検査における質問については、複数の検査場で公平・公正な評価が担保されるよう研修において質問を例示したところであるが、結果として質問の内容が画一的なものとなり、質問をされて戸惑った受検者がいた旨の意見等があることから、改善をしていく必要がある。

【主な意見】

- 従来の面接では画一的な応答が多かったが、今回の自己表現では、受検者ごとの人となりや個性を知ることができ、全体として多彩で良かった。（高等学校）
- 入学生が自分たちの得意分野について理解してもらっているという意識をもっている感じがする。（高等学校）
- 自分を見つめる機会となった。また、各教科等の授業とも関連して、表現する指導が意識して

行われるようになった。教員の授業改善が進んだ。(中学校、市町教育委員会)

○広島県で「15歳の生徒にどのような力を身に付けさせたいか(自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力)」が明らかになり、それに基づいた高校入試改革であり、小中学校教育で目指す生徒の姿の方向性が全県で共有化された。(中学校)

○今までの自分を改めて振り返って整理することで、自分について再認識できたと感じたから。(高等学校第1学年生徒)

○緊張して上手く話せなかったり、時間いっぱい話せなかったりしたけど、自分が話したいことや伝えたいことはちゃんと言えたから。(高等学校第1学年生徒)

●自己表現で求めていることは身に付けてほしい大切な力だが、入学者選抜で評価することは難しいのではないかと。実施の必要性について検討すべきである。(高等学校、中学校)

●質問に制約があり、自己表現をやり切った受検者が戸惑うなど、難しかった。(高等学校、中学校、市町教育委員会)

●5教科の勉強もあるのに、自己表現の準備もあり、大変で、負担が大きかった。(高等学校第1学年生徒)

### 3 今後の改善について

#### (1) 令和6年度入学者選抜から実施する事項

○ 自己表現カードの記入の時間を15分間に変更

一次選抜第1日の時程を短縮し、受検生及び高等学校の負担軽減を図る観点から、令和6年度入学者選抜から、自己表現カードの記入の時間を現行の30分間から15分間に短縮して実施する。また、この改善に伴い自己表現カードの様式を改訂する。

なお、自己表現カードについては、高等学校長等から廃止、提出方法の変更について意見があることから、取扱いを継続的に検討する。

○ 自己表現の検査における質問内容等の改善

受検者の自己表現をより一層引き出し、自己表現の充実を図る観点から、令和6年度入学者選抜から、自己表現の検査における質問内容等を改善する。

#### (2) 継続的に検討する事項(実施年度は未定)

○ 一次選抜の日程について

一次選抜の日程について、令和5年度入学者選抜において2月下旬に実施したが、日程の在り方については様々な立場の意見があり、総合的に判断する必要があることから、中学校長及び高等学校長等と連携し、継続的に検討する。